

事業の概要

「JAXA筑波宇宙センター新展示館事業について」

2022年8月

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
広報部



1. 事業概要

JAXAでは、筑波宇宙センターの展示館(名称:「スペースドーム」)の老朽化に伴い、その対策と同時に展示内容の充実化を図ることを検討しています。新展示館は、研究機関であるJAXAの、宇宙開発に関する説明責任を果たす広報活動の場とするとともに、来場者が日本の宇宙開発の歴史と現在と未来への理解を深め、学びと交流の促進を図ることを目的としています。(参考1 参照)

本事業は、以下に示すコンセプトを新展示館の理想とし、PPP手法を用いた官民連携事業とすることを想定しています。

つきましては、民間事業者の方々から、次頁以降の内容を、一括もしくは分割で実施するための提案・意見を広く求めます。

JAXAが目指すもの(コンセプト)

- ◆ 国民が日本の宇宙開発の歴史・現在・未来について理解を深める場
- ◆ 人類共通の活動としての宇宙開発とダイバーシティに触れ、日本人としての誇りと自信を感じられる場
- ◆ 宇宙開発現場のスケール感や映像のリアリティ、模擬体験等を通じて、宇宙とJAXAと人々がつながるパブリックエンゲージメントの場
- ◆ 環境など未来社会の問題解決に宇宙技術が貢献できることを知る場
- ◆ 子供から大人まで多彩な宇宙コミュニティー(次世代教育を受ける親子、学生、社会人、宇宙開発を担う企業等)、「産・学・官・一般市民」の学びと交流の場

2. 要求事項

1. 展示施設の老朽化対策

2. 展示コンテンツの充実

3. 展示館の維持・管理・運営

3. 可能なこと

入場料徴収や収益事業の実施については、現在関係省庁と調整中です。結果によっては実施できない場合がありますが、今回のRFIでは実施可能な条件で情報をお寄せいただきますよう、ご理解をお願いいたします。

- 新広報施設の対象エリアとして、約13,000㎡の敷地が利用可能です。
 - ※展示エリアは、現展示館の展示面積と同規模(1,500㎡相当)を想定しています。(参考2 参照)
 - ※現在広報用に使用している建屋(プラネットキューブ、広報情報棟の一部)の利用が可能です。(参考3 参照)
- 展示館のコンテンツ整備および運営の充実に充当することを目的に、来場者から入場料の徴収を可能とします。ただし、上限は1,000円/人とし、子供料金等の割引等を考慮ください。
- 展示館運営に際し、現行の展示品等、JAXAの保有資産を利用できます(参考4)。入場料を事業者が徴収する場合、土地使用料、建屋使用料、展示物等の素材使用料、光熱水料等を申し受ける場合があります。
- 物販・飲食サービス等の収益事業を可能とします。
 - ※計画と収益結果についてJAXAにご報告いただきます。
 - ※収益事業を行う場合、土地使用料、建屋使用料、展示物等の素材使用料、光熱水料等を申し受けます。
- JAXAからの資金負担は、以下を上限とします。

現展示館のテント張替え費相当+現行運営費相当(約1億円)/年×事業期間

 - ※施設は老朽化対策としてのテント張替え相当を想定していますが、コンテンツ充実のために必要な施設を改修する等のアイデアが提案されることを排除しません。
- 管理運営には、コンテンツの初期リニューアル、定期的なリニューアル(5年毎想定)、コンテンツの維持および施設運営を含みます。

《参考1》筑波宇宙センター 現展示館の概要(1)



2022年7月まとめ

敷地面積： 約13,000m²(参考2 参照)

展示館延床： 約1,500m²

来場者数： 357,224人(2018年度) / 334,568人(2019年度※)
52,939人(2020年度※) / 87,665人(2021年度※)

※新型コロナにより、休館期間あり(緊急事態宣言発出時)

来場者層(2018年度)： 大人 / 63.8%(企業、大学、地方自治体、町内会、敬老会等)
中・高生 / 21.9%
小学生以下 / 14.2%

VIP来訪歴： 天皇・皇后両陛下(現上皇・上皇后陛下)、皇太子殿下(現天皇陛下)
スペイン国王陛下・王妃陛下、ルクセンブルク大公国大公殿下
内閣総理大臣、各省大臣、長官(内閣府、文科省、経産省、防衛省 等)
各国大使・大使館関係者、各都道府県知事・市長、県・市・町議会議員 等

来場交通手段(2018年度)： 団体観光バス(学校・自治体、旅行会社(企画ツアー)等) 65.4%
自家用車・公共交通機関 33.4%

売上額(2018年度)： グッズ売上げ / 1億7,900万円

見学ツアー(バスツアー)収入 / 約1,800万円 ※大人500円/人、高校生以下無料

支出額(2018年度)： 約1億2,000万円(テントリース4,000万円 人件費6,900万円、他メンテナンス費等)

今後の支出予定： 初期整備費(テント張替相当)、運営費約1億円/年

その他： トリップアドバイザーで5年以上 エクセレンス認証を受賞(2018年時点)

《参考1》筑波宇宙センター 現展示館の概要(2)

広報エリア

入場無料

展示館スペースドーム:人工衛星やロケットエンジンの試験機・模型、国際宇宙(約1,500㎡) ステーション「きぼう」日本実験棟実物大模型等を展示



プラネットキューブ:特別展示及びミュージアムショップ(おみやげ・軽食販売)



ロケット広場:実物大のロケット展示(記念撮影エリア)



参考: <https://visit-tsukuba.jaxa.jp/>

《参考1》筑波宇宙センター 現展示館の概要(3)

見学ツアー(バスツアー)

料金: 大人500 円/人、高校生以下・障がい者無料

1日8便(各回上限40名)※ 所要時間1時間10分

JAXA紹介ビデオ上映+構内施設(宇宙飛行士養成棟、きぼう運用管制室等)を見学



一般特別公開

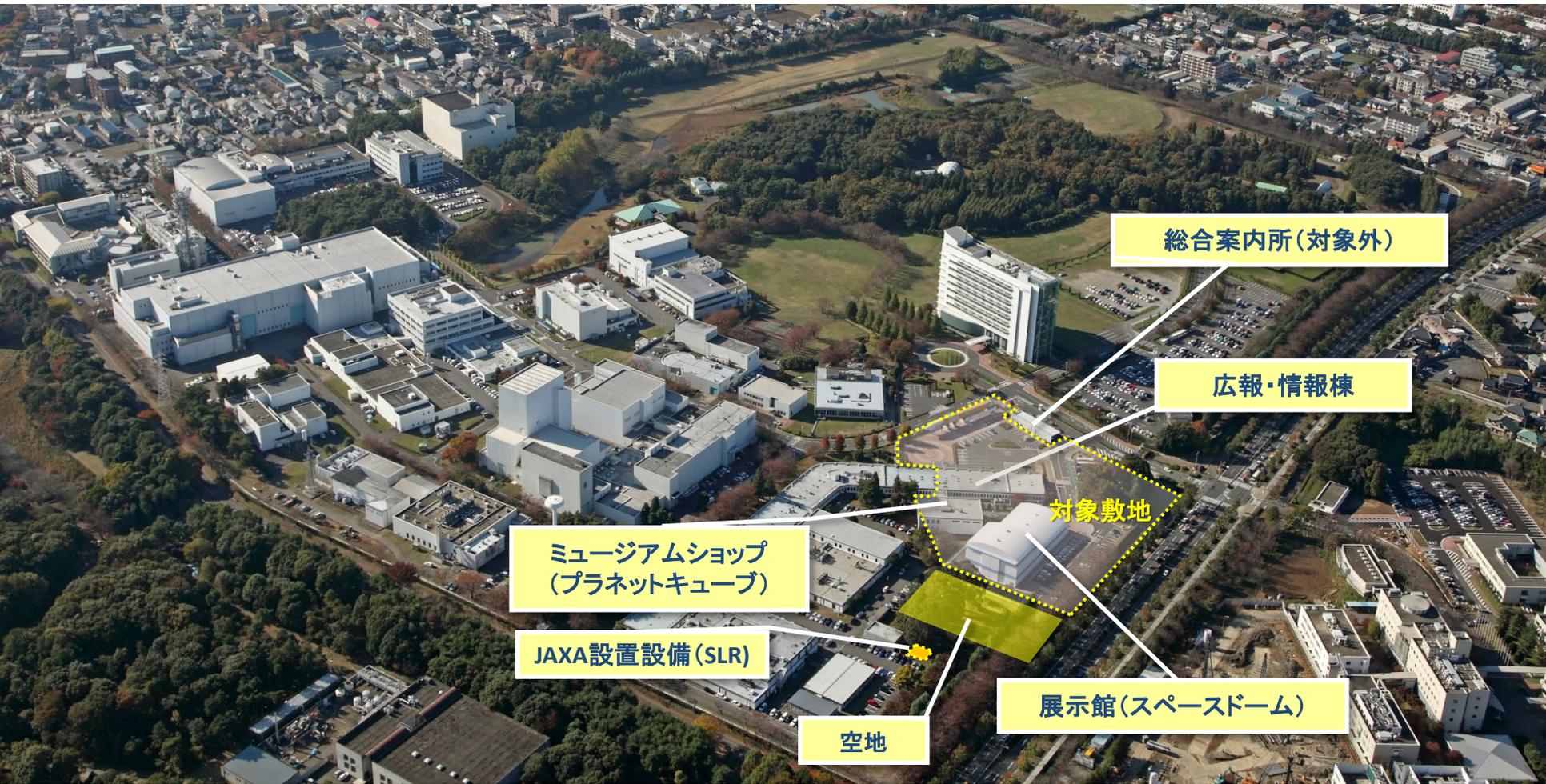
入場無料

年1回 1日限定開催
来場者数 約1万人※



※2019年度実績

《参考2》対象敷地の概要図

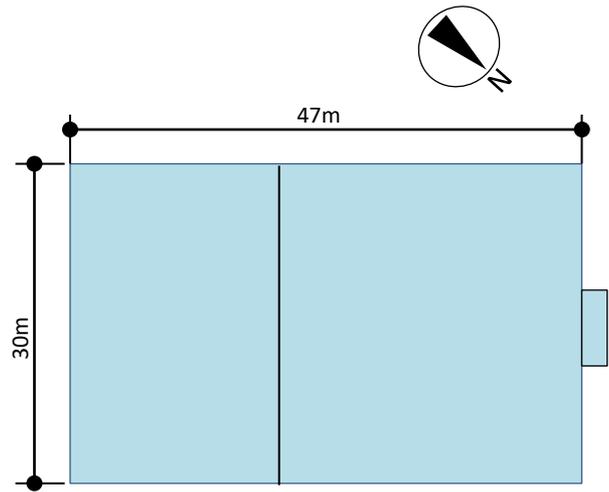


<敷地に関する補足>

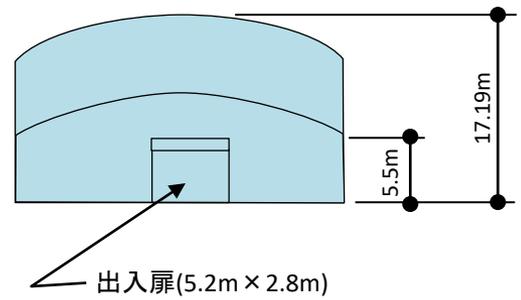
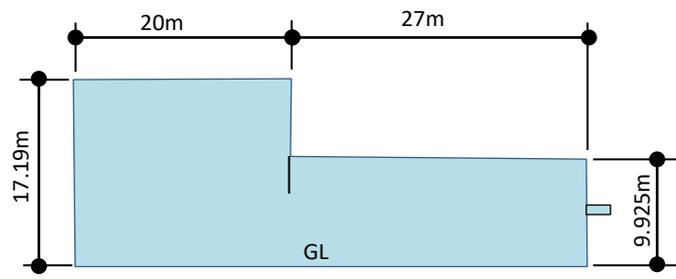
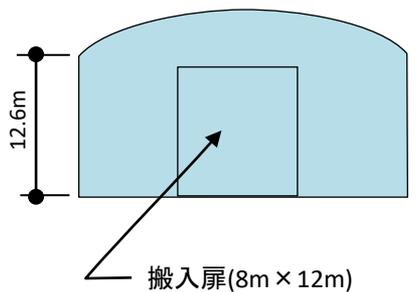
- ・敷地は概要であり決定ではない。
- ・図は利用できる最大範囲の敷地を示す。
- ・敷地内のJAXA設置設備(SLR)には周辺建築物に対する高さ制限がある。
- ・敷地内にJAXA業務専用の駐車場(約20台)を総合案内所付近に整備する必要がある。
- ・敷地内に埋設されたインフラ等について、土地利用にあたり移設が必要となる場合がある。

《参考3》施設概要図(1)

仕様：
大型固定式テント
構造：
一般幕構造
床面積：
約1,500m²



外観



寸法は外表面基準

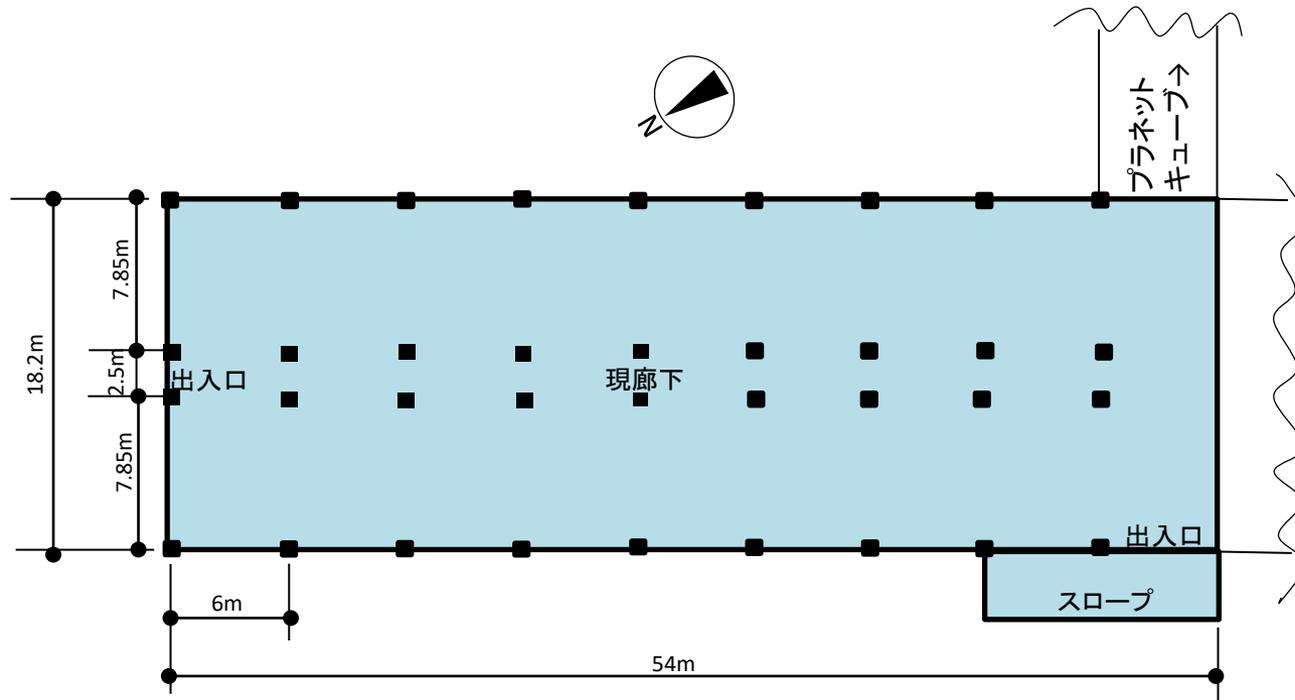
スペースドーム概要図

《参考3》施設概要図(2)

仕様:平屋建
 構造:RC造
 現状は間仕切り壁、ユーティリティスペース、フリーアクセス床等多数存在
 床面積:約900m²



外観



寸法は中柱基準

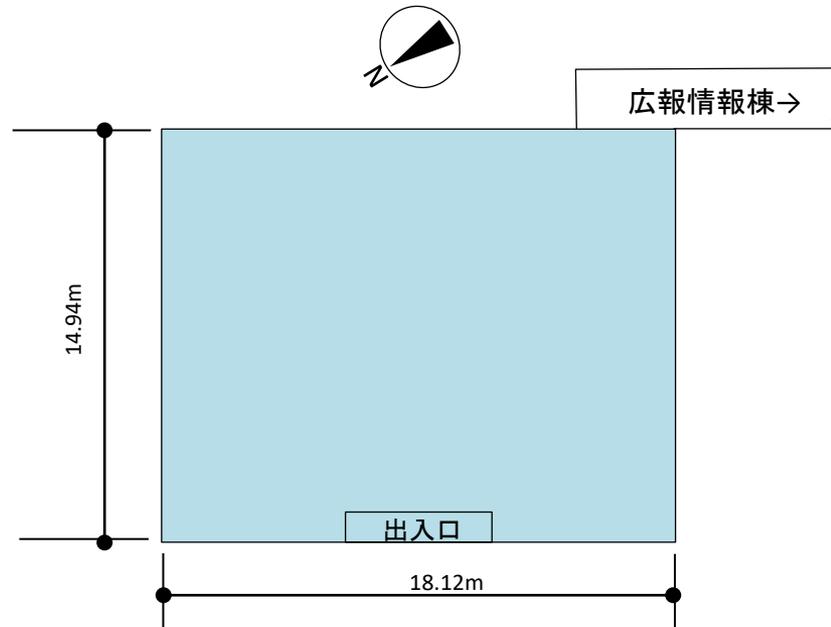
広報情報棟(広報エリア)概要図 (平面図)

《参考3》施設概要図(3)

仕様: 2階建(1階部分)
構造: S造
床面積: 約270m²



外観



寸法は中柱基準

プラネットキューブ概要図 (平面図)

《参考4》活用可能な保有資産

■展示物

H-IIロケット実機屋外展示、衛星実機・試験モデル約20機、ロケット(H-II LE7、LE5エンジン) ISSきぼう実物大モックアップ、HTV(こうのとりのり)実物大モックアップ、はやぶさ2実物大模型、ソユーズ帰還カプセルモックアップ、ビオンカプセル 等

■宇宙飛行士訓練機材 (実際に日本人宇宙飛行士が 利用していたもの)

■映像・画像素材(デジタルアーカイブ) 等

